



やまざとの風

～心を込めた「あいさつ」「校歌」 輝く「笑顔」～

山里中学校だより

2025. 10. 10 号

文責 小森

―実りの秋、心をつなぐ季節に―

秋風が心地よく吹き抜け、校庭の木々がやっと色づき始めました。朝夕の涼しさの中に、確かな季節の移ろいを感じる 10 月。夏の猛暑を乗り越え、生徒たちの表情にも落ち着きと充実が見られる頃となりました。2 学期も折り返しを迎え、各学年の活動がさらに深まっていく時期です。

長崎市内では 7 日から 9 日にかけて秋の風物詩「長崎くんち」が開催されました。市内各所が賑わい、龍踊りや傘鉾の華やかな演し物が街に活気をもたらししました。地域の伝統行事を生徒たちの中にもその様子を見に出かけたという声が多く聞かれました。世代を超えて受け継がれてきた「くんち」は、地域の誇りであり、同時に人と人をつなぐ力をもつ行事です。学校での行事もまた、こうした地域の営みと深く結びついています。地域の方々に支えられ、応援されてこそ、子どもたちの学びは豊かになります。文化と伝統に触れることで、子どもたちは自らのふるさとを誇りに思う心を育てていくのです。



10月2日には、長崎市中学校駅伝大会が開催され、本校からも男女の代表チームが出場しました。女子チームは 22 校中 7 位、男子チームは 28 校中 15 位という結果でした。いずれも上位入賞には一步届かなかったものの、最後までたすきをつなぎ合う姿には、



仲間を思う真摯な気持ちと粘り強い努力の跡がはっきりと見られました。夏休みの厳しい暑さの中でも練習を重ね、一本のたすきに想いを託して走り抜いた経験は、順位以上に価値あるものだったと思います。走者だけでなく、伴走した補助員や応援の生徒たちの存在もまた、チームの力を支える大きな要素でした。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」その言葉が、今年の駅伝チームの姿に重なって見えました。

そして 10 月 7 日には、長崎市民会館文化ホールを会場に、合唱コンクールが行われました。各学級がこの日に向けて放課後の時間を惜しまず練習に励み、指揮者・伴奏者を中心に心を合わせて取り組んできました。ステージでは、どのクラスも自分たちの思いを歌声に乗せ、会場全体に響かせました。曲の入りやハーモニーの美しさだけでなく、「自分たちで創り上げる喜び」や「仲間と共に一つの音楽を形にする達成感」が感じられる、まさに中学生らしいエネルギーに満ちた舞台でした。結果に関わらず、誰もが本番を終えた後に見せた晴れやかな笑顔が印象的で、練習の過程にこそ学びと成長があったことを物語っていました。



駅伝大会では「仲間と力を合わせること」、合唱コンクールでは「心をつなぐこと」、いずれも人と人との「つながり」を感じさせてくれるものでした。現代社会では、デジタル化や個別最適化が進む一方で、人と直接関わり合う時間の大切さが改めて問われています。山里中学校の生徒たちは、互いに認め合い、支え合いながら成長していく姿を見せてくれています。教職員一同、これからもその姿を温かく見守り、共に歩んでいきたいと思っています。

実りの秋は、努力の成果が形となって表れる季節です。同時に、これまでの過程を振り返り、自分自身を見つめ直す時期でもあります。大きな行事が続いた 10 月、多くの経験を通して自信を深め、次の目標に向かって歩みを進めています。11 月には、定期テストや生徒会役員選挙などが予定されています。これまでの頑張りを認め、さらに一步前へ進めるよう支えていきたいと思っています。

学校ホームページの「学校行事【学校生活】」でも活動の様子を公開しております。

<https://www.nagasaki-city.ed.jp/yamazato-j>